

東北労働金庫「ろうきん地域貢献ファンド」 2007年度
Aコース(企画助成コース) 助成事業報告書

平成 20 年 3 月 31 日

団体名(ふりがな) ^{じきつたいさくりぼんいいかい} みやぎ自殺対策リボン委員会																															
事業名																															
連絡担当者お名前(ふりがな) ^{たかはしさとみ} 高橋聡美																															
担当者 電話	F A X																														
E-Mail																															
助成金を使って行った事業について、記述してください。																															
1.制作・配布状況(2007年7月~)																															
・助成金をリボンバッジの作成費に充て、自己資金と合わせ2007年7月から2008年3月現在まで合計8000個を作成し、6000個を全国へと配布するに至った。																															
制作数	配布数	在庫(リボン委員会)																													
8000 個	5991 個	2009 個																													
2.主な配布先																															
・主な配布先は宮城県職員・自死遺族支援団体・個人・病院・大学関係者・大学生などで特に、宮城県職員へは職員の募金による配布約2100個、仙台市からは自殺対策プロジェクトの一環として市民に配布するという事で約2000個の注文があった。市民からの反響も大きく、病院関係者、身近な人を自殺で亡くした人などからバッジの要望があった。																															
自殺対策リボンバッジの配布先																															
<table border="1"> <caption>自殺対策リボンバッジの配布先</caption> <thead> <tr> <th>配布先</th> <th>数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>宮城県</td><td>2142</td></tr> <tr><td>仙台市(戦略研究含む)</td><td>2022</td></tr> <tr><td>県外の自治体</td><td>282</td></tr> <tr><td>議員</td><td>54</td></tr> <tr><td>報道・宣伝用</td><td>153</td></tr> <tr><td>自死遺族支援団体</td><td>518</td></tr> <tr><td>個人</td><td>312</td></tr> <tr><td>学生(主に大学生・院生)</td><td>50</td></tr> <tr><td>自死遺族</td><td>9</td></tr> <tr><td>大学職員</td><td>51</td></tr> <tr><td>病院</td><td>306</td></tr> <tr><td>メンタルヘルス関連団体</td><td>27</td></tr> <tr><td>宗教・葬儀関係</td><td>25</td></tr> <tr><td>一般企業</td><td>20</td></tr> </tbody> </table>		配布先	数	宮城県	2142	仙台市(戦略研究含む)	2022	県外の自治体	282	議員	54	報道・宣伝用	153	自死遺族支援団体	518	個人	312	学生(主に大学生・院生)	50	自死遺族	9	大学職員	51	病院	306	メンタルヘルス関連団体	27	宗教・葬儀関係	25	一般企業	20
配布先	数																														
宮城県	2142																														
仙台市(戦略研究含む)	2022																														
県外の自治体	282																														
議員	54																														
報道・宣伝用	153																														
自死遺族支援団体	518																														
個人	312																														
学生(主に大学生・院生)	50																														
自死遺族	9																														
大学職員	51																														
病院	306																														
メンタルヘルス関連団体	27																														
宗教・葬儀関係	25																														
一般企業	20																														

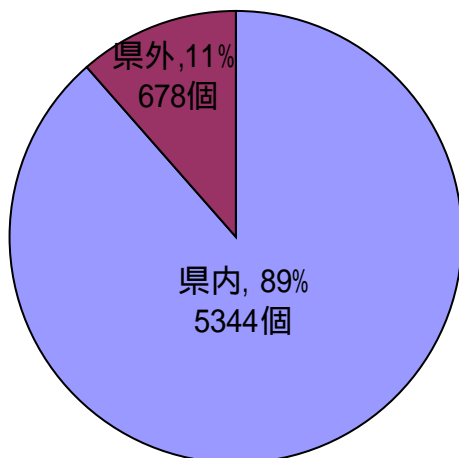
助成金を使って行った事業について、記述してください。(続き)

3. 県外での広がり

一方、県外における広がりをみると、配布したバッジのうち約 11%が県外であった。配布先の内訳は福岡県（県庁で 200 個）、福島県精神保健センターなど福島県機関、青森精神保健センター（ボランティアの方々）、岡山精神保健福祉センター、愛媛県松山市、愛媛県新居浜市議会、山形県鶴岡市議会、れんげの会（福島自死遺族支援）

リメンバー名古屋（自死遺族支援）、りんどうの会（岩手自死遺族の会）、病院（主に精神科単科の病院）などで、主に自死遺族団体や自治体が多かった。

県外での配布先



村井知事もバッジを着用し自殺対策活動に協力していただきました。

4. その他の活動

チラシを 1000 部作成し、シンポジウムなどで配布。またホームページも作成し、遠方からも情報をキャッチできるようにした。11 月 11 日にはせんだい CARES2007 に参加し参加者と一緒に自殺の実態についての情報交換をし、私達にできることについてのディスカッションを行った。当日は東北大学法学部の政策ゼミ生および担当教授も一緒に参加された。一般の方の参加は 1 名であった。お茶を飲みながらざっくばらんな話で、学生たちから様々な疑問や課題が提示され、意見交換を行うことができた。

今回の助成事業には、どのような形で、複数の団体の協働やボランティアの参加がありましたか？ 具体的に記述してください（人数、関わりの内容、参加者の感想など）

この事業は主にみやぎ自殺対策リボン委員会が行ってきたが、自治体や自死遺族支援団体からの協力もあり、市政だよりにリボンバッジの件を掲載していただいたり、その他のミニコミ誌にも掲載していただいたりと広報面で多大な支援をいただけた。

また、全国の議員の方たちからも関心を示していただけた、市議会で取り上げてくれた市町村も複数あった。

また宮城県内で最も自殺率の高い栗原市では、佐藤勇市長をはじめ市の職員がリボンバッジを着用し自殺対策活動を行っている。

厚生労働省へは、厚生労働大臣および副大臣にリボンバッジを届けその趣旨を説明したところ、まだ一つの団体での使用の段階なので、厚生労働省としての活用は現段階では見送りとするが、重要資料として厚生労働省内にリボンバッジの現物を保管しておくとのことであった。

当初の事業目的はどの程度達成できましたか

申請書に記載した事業目的

1) 申請前、寄付金で県内配布分 2000 個を作成したが、今回の助成事業によって、県外への配布が可能となり、県外 3000 個を目標とし配布の予定である。（全国合計年内 5,000 個の配布目標）

2) リーフレットや HP を作成することにより、より幅広い層に自殺対策リボンが認知され、地域の自殺への関心が高まることが期待される。

3) 数多くリボンを作成し、配布することによりマスコミなどの関心度が高まり、より効果的な宣伝効果が期待できる。

4) 自殺対策リボンが社会的に認知されることにより、リボンを目印に希死念慮のある人や自死遺族が、リボンバッジをつけている人に相談をすることが可能となる。これは、リボンが 1 次予防の枠を超え、2 次 3 次までも可能とすることを示唆している。

目的の達成度（自己評価）

1) 配布状況は、全国配布 5000 個が目標であったが、6000 個の配布をしており目標は達成できた。ただし、県外への配布を当初 3000 個を目指していたが、700 個弱に留まった。

2) チラシは約 1000 部全て配布し、リーフレットを頼りに連絡してくる方も多くみられた。また HP のアクセス数は徐々に上がりつつある。

3) マスコミの反応としては、一部の雑誌などが取り上げてくれたが全国的な取り上げは見られなかった。

4) リボンバッジの配布に留まりその意義まで伝えるには至らなかった。

達成できない部分があった場合には、考えられる原因をお書きください。

まず、全国的な展開が思うように運ばなかった理由の一つとして、9 月の自殺予防週間の前にリボンバッジの作成が間に合わずに、全国への宣伝の機会を今年は逃してしまったことが挙げられる。来年度は自殺予防週間にあわせてキャンペーンができるように、リボンバッジの在庫を置いておくと共に、事前のマスコミへの宣伝も綿密に行っていきたい。

<p>今回の事業は、団体の活動や、地域社会にどのような成果・効果がありましたか</p> <p>自殺対策リボンバッジはリリースされてまだ半年程度であるが、その期間に 6000 個を配布できたことは啓発活動に大きな影響を与えたと思われる。また、リボン運動を通して「自分たちにも何かできないか」という問い合わせもあり、他の団体とのコラボレーションも期待できるようになった。</p> <p>また、私達の当初の予想に反して、自治体や議会が自殺対策リボン運動に高い関心を示し、協力してくれたことから、官 - 民が一体となって自殺の問題に取り組むという意識の向上にもつながったと考える。</p>
<p>今回の助成事業を行って見えてきた課題は何ですか</p> <p>また、その課題解決に向けて必要なものは何ですか</p> <p>自殺対策リボンバッジを配布するのが目的ではなく、配布することで多くの人に自殺のことを考える機会を持ってほしいと考える。そのためには、バッジと一緒に自殺についての記事や相談窓口などの情報を載せたリーフレットを配布し、リボンと一緒にその「メッセージ」を伝えることが大事であると考えている。</p>
<p>今回の事業を、今後どのように展開していきますか</p> <p>また、その際に必要なものは何ですか</p> <p>自殺予防週間に全国で自殺対策リボンバッジが活用されるように広報活動をしていく。また、自殺に取り組む団体との横のつながりを強めていきたい。</p>

助成金の使途内訳（具体的に記入してください）

収入の部

項目	金額（円）	内訳	助成金充当額
ろうきん地域貢献ファンド助成金	300000		
委員会設立基金	100000	委員会メンバーの寄付金	
募金	1279207	賛同者からの募金	
合計	1679207		

支出の部

項目	金額（円）	内訳	助成金充当額
リボン作成費用	1541610	リボンバッジ8000個	200000
チラシ作成費用	69150	啓発チラシ700部	50000
リボンバッジ郵送代	39200	切手代・ゆうパック	39000
道路許可証	2000	街頭キャンペーン	0
HP管理費	5533	ドメイン取得・サーバーレンタル	0
文房具	11353	封筒・梱包用具・ガムテープなど	11000
せんだい ICARES2007参加費用	7301	参加費用・お茶代	0
その他	3060	銀行手数料・駐車料金	0

合計	1679207	300000
----	---------	--------

<ろうきん>へのメッセージをどうぞ。

有志でお金を集めて 500 個 1000 個と少しずつ作っては資金を集めてという立ち上がりでしたが、このファンドをいただけたことで、大量にリボンを作成することができました。ありがとうございました。このファンドをいただけていなかったら、こんなに沢山の数のリボンを世の中に出すことは不可能だったと思います。心から感謝いたします。これからも、世の中から自殺が減るように弛まぬ努力をいたしたいと思います。ありがとうございました。